

28年度巻頭言

「当たり前なのが共有され、日々末永く続く社会であって欲しい」

日本や世界における政治の流れの様子は、どうみても危機的である。自分だけが良ければいいという自己保身や拝金主義の横行は、混乱（カオス）と権力の集中を招いているようである。

地球という運命共同体や人間も含まれる生き物の生態系から考えてみると、お互いに助け合いながらギブアンドテイクの気持ちを全世界が共有し広まる実践的な活動が最も重要ではないだろうか。

のらえもんは、ささやかでも平穏な日々の生活が永遠に続くことを願っている。

さて、16年目を迎えたのらえもんの活動をふり返ってみると、大きな特色が3つある。

一つは、古民家の利用である。4・7・10月に利用して、活動の輪の広がりを実感した。まずは、掃除とストーブの火おこしに始まる。ストーブは唯一の調理と暖房の源なのだ。だから、煙突から煙りが出始めると、ホットする。ワンフロアの居間は、草木染め・弓矢作り・竹箸作りそしてふり返りの感想を書く場として利用される。食事や就寝する生活の場であり活動する場でもある。

特に印象に残った活動は、草木染めである。1日目にハンカチに模様を入れ、定着液に浸けて置く。3日目に輪ゴムを取り、用水路でよく水洗いをする。それを一本の綱にぶら下げる。ハンカチは風に揺られながら、近くの田んぼと遠くの間山々を見ながらどんどん乾いていく。この時の風景は、「豊かさ」を表しているように思えてならなかった。また、ストーブの暖かさは、人を集め、煮炊きをし、会話を弾ませてくれた。

古民家の利用は、学校で学んだ知識を知らない間に実生活で応用し、その知識のイメージを作り広げていることに気づくのがだった。

二つめは、海の活動に初めて挑戦したことである。海の生き物とその付き合い方を知りきっかけになった。

6月の潮干狩りには圧倒された。砂浜に林立する色とりどりの日よけテントと貝を探すたくさんの人々……。人ばかりではなく、干潟に群れるたくさんの野鳥。その野鳥をカメラや双眼鏡で追う人々。その向こうには、大きな船小さな船がひっきりなしに行き交う。さらに、時間と共に海の水がどんどんひいていき、浅瀬が姿を現してくる現象は驚きであった。

10月の海は、貝は小さく、訪れている人も少なかった。2月の海はさらに静かで、もうすぐ訪れる春を待っているかのようなようであった。

海もまた、山と同じように、日々姿を変えていることを知った。

三つ目は、幼稚園・保育園の先生方がのらえもんの活動を積極的に活用しようとしていることである。田植えや稲刈りにはたくさんの先生方が参加してくれる。余った苗や落ち穂を園に持ち帰り、子どもたちに活かそうとしている。また、草木染めやしめ縄づくりで

は、こどもたちの活動として取り入れている。

このような先生方たちの学びの姿勢は、きっと子どもたちに豊かな感性を育てるだろう。

今年度見つけた、のらえもんのささやかでもすばらしい瞬間の断章は……

* のらえもんの活動の中では

- のらえもんの活動に、時間と費用をさいて参加してくれる保護者・子どもたちの顔
- 田植え・・・稲刈り・・・新米の購入・・・しめ縄作り、を続けてこられたこと
- 保育園の先生方が、教材に、と、稲の苗を、手に泥をつけながら選んでいる姿
- 1年に1回のスキーでも、続けているうちにみんなじょうずになってきたこと
- ハゼ釣りで、「釣れた！」と笑顔をふりまく子どもたち
- 潮干狩りをしているすぐそばで野鳥が舞、その先にはたくさんの船が行き交う光景
- 古民家で、布団を並べて寝ている子どもたちの顔
- 田んぼと谷川連峰を背景に、風に揺られる草木染めのハンカチ
- 大きな子が小さい子の面倒をみながら、なんだかんだと言いながら遊んでいる様子

* 土呂部では

- 私たちが食事をしている合間に、民宿の女将さんが布団の上げ下げをしてくれる気遣い
- 「娘が薪ストーブを使うようになったので……」と、薪小屋からナラの薪束を運び出す父親の会話
- オホッパ（採草地）の斜面を、ソリで無邪気に遊ぶ子どもたちの姿。そして、時折聞こえてくるトビの鳴き声、沢を挟んだ対岸の山々の静寂。

* 私が思い浮かべる日々続く情景は

- 布団干し・・・太陽をいっぱい吸い込んでフワフワになった布団で寝る温かみ
- 太陽をいっぱい当てて、しっかり乾いた家族の洗濯物
- 土を耕し、種を蒔き、虫を捕ったり土寄せをしたりしてようやく実った野菜を、収穫するときと味わうときの気持ちの高揚
- 近所の子どもたちが、路上で元気よく遊んでいる風景
- 水田の緑がどんどん増え、秋にはたわわに実った稲穂が風に揺れている風景

まだまだたくさんのすばらしい瞬間があった。のらえもんの活動は、「すばらしい瞬間」の連続の上にある。だからこそ16年間も続けてこられたのだ。

私たちはお金に翻弄されない一人一人の生活こそが一番大切なのだという価値観を共有することが重要である。その要は、第一次産業に大人も子どもも夢を輝かせることである。農業を始め漁業・林業・鉱業の活動に支えられて人々の生活があり、その日々の生活の続く延長上に様々な経済活動が生まれ、そして私たちは生きているのだから。

「日々の暮らしにある、ささやかでも素晴らしい瞬間」に気づき、それを積み重ねていける日々とその大切さを共有できる社会を目指すことが、一番望まれているのではないだろうか。のらえもんの思いはただ一つ、そこにある。

28年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 9 (土)	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布	都市農業公園	大 16 高 2 中 2 小 15 幼 3 計 38
2	4月29～5月1日 2泊3日	古民家宿泊体験 早春の里山散策 春の星空観察	みなかみ町 藤原	大 9 中 2 小 8 幼 1 計 20
3	5月15 (日)	田植え体験 イチゴ狩り アサヒビール工場見学 バス利用	宅間農園 アサヒビール 守谷工場	大 37 中 5 小 21 幼 3 計 66
4	6月11 (日)	潮干狩り・砂浜の生き物 講師：福藤 恭司 バス利用	ふなばし三番 瀬海浜公園	大 14 高 1 中 1 小 10 幼 2 計 28
5	7月22～24日 2泊3日	古民家キャンプ 体験7回目 上ノ原散策、矢木沢ダム 弓矢づくり、草木染め	みなかみ町 藤原	大 13 中 4 小 11 幼 3 計 31
6	8月21～22日 1泊2日	鬼怒沼登山 日光沢温泉泊 女夫淵集合	奥鬼怒温泉郷	大 11 中 4 小 9 計 24

7	9月 3 (土)	ハゼを釣ろう・川岸の生き物 講師：福藤 恭司 ハゼ・・・ 4 セイゴ・・・ 16 カニ、カナヘビ、バッタ	都市農業公園 下の荒川	大 8 中 1 小 7 幼 1 計 17
8	9月11 (日)	稲刈り体験・自然博物館見学 化石探し 6回目の稲刈り体験	宅間農園 茨城県自然博 物館	大 26 中 3 小 14 幼 2 計 45
9	10月 2 (日)	あだちNPOフェステバル 2016 草木染め・ドングリクラフト	足立区役所	スタッフ 14
10	10月21～ 23 (日)	古民家宿泊体験3回目 11月の事前調査 紅葉の藤原	富岡製糸場 みなかみ町 藤原	大 5 中 2 小 3 計 10
11	10月30 (日)	海の生き物 潮干狩り 野鳥観察	ふなばし三番 瀬臨海公園	大 4 小 2 計 6
12	11月 5 (土)	のらえもん米の販売 購入量 447, 6kg	いきいき館 駐車場	協力者 39人
13	11月20 (日)	富岡製糸場 荒船風穴 下仁田歴史館 バス利用	富岡～下仁田	大 22 中 5 小 17 計 44
14	12月 3 (土)	サケの受精卵配布および 川岸の生き物	都市農業公園 新芝川～荒川	大 10 中 1 小 7 幼 1 計 19
15	12月25 (日)	しめ縄をつくろう わら、稲穂	鹿浜五色桜小 図工室	大 11 中 1 小 6 幼 1 計 19

16	1月21～22日	スキー体験9回目 ・ 自分のイメージで滑ってみよう ・ 夜の交流会 バス利用	菅平ダボススキー場 菅平プリンスホテル	大 9 高 2 中 2 小 5 幼 1 計 19
17	2月12(日)	海の生き物 潮干狩り 野鳥観察	ふなばし三番瀬海浜公園	大 7 中 2 小 3 計 13
18	3月4～5(日)	土呂部のごちそう かんじき体験 メイプルシロップ ソリ遊び	日光市栗山町土呂部 民宿：水芭蕉	大 4 中 2 小 3 計 9
19	3月5(日)	サケの稚魚の放流	都市農業公園 新芝川	大 1 中 1 小 1 計 3

28年度参加者：

大人207、高校生5、中学生37、小学生142、幼児18、合計410

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、希望校に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵

* のらえもん出前授業

次のような内容で、希望校に出前授業しました。

- サケの一生
- カイコの育ち方
- 草木染め
- しめ縄づくり